

11月

みんなくウィークエンド・サロン

# 研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分(予定)

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!  
「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」  
などなど、話題や内容は千差万別!  
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

7日  
(11月11日)

話者: 佐々木史郎(副館長/民族社会研究部教授)

話題: 【企画展「アジアの境界を越えて」関連】  
アムールの人々の文化交流

場所: 企画展示場A

14日  
(11月18日)

話者: 岸上伸啓(先端人類科学研究部教授)

話題: イヌイット・アートについて

場所: アメリカ展示場

28日  
(11月25日)

話者: 杉本良男(民族社会研究部教授)

話題: アートになったインド・サリー

場所: 南アジア展示場

## 編集後記

今号の特集では、腹の文化的意味をさまざまに論じていただいた。シンボル事典によれば腹は母性に結びつけられることが多いようだが、日本のことわざを見ると、容易に見せない深い考えや本心を収める中心地のようである。腹を合わせる、腹を決める、腹ふくるる思い、腹の探り合い、腹黒、腹芸、腹を割って話す、腹を探られる、などはその例だし、腹には虫が居るとときには騒いだりする。中央にあるヘソを体の中心と見なすのも、インドのヨーガ思想が起源とされる臍下丹田にも相通じるようだ。ヨーロッパでは体の中心を心臓に置くことが多いというから、文化における身体観の違いは面白いテーマだと、あらためて思う。

今号には、驚異譚の話題やバッタの行進など、驚きというテーマも仕込まれている。博物館の起源のひとつが、15世紀~17世紀に欧州の王侯貴族や文人が作った「驚異の部屋」であったことを思い出しつつ、本誌でも読者の方々に向けて知的な驚きを発信し続けたい。(久保正敏)

●表紙: 「布袋(三猿) 資料番号: H0199533

中国の仏僧に由来する布袋像。中国では豊かさの象徴。日本では七福神のひとつに数えられ、世界的にはブッダの名で知られる。三猿の「見ざる」を象徴する本資料は中国製であるが、収集地はアメリカ。

次号の予告

特集

## 家畜にみる生き物の多様性

月刊みんなく 2010年11月号

第34巻第11号通巻第398号 2010年11月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 朝倉敏夫 榎永真佐夫  
庄司博史 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一孝

制作・協力 財団法人千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に  
お願いします。

\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

## 1年間みんなくに何度でも入館できる

「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。

(電話06-6877-8893/平日9:00~17:00)

### 交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通ください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてください。

みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

